

# 成田山の梵鐘について

## 成田山に響く鐘の音について教えてください

毎日響く鐘の音はどこで鳴らしているのでしょうか？

### お答えします

大本堂の右手前にあります鐘楼（しょうろう）にて毎日朝・昼・夕刻の3回、毎日鐘を打ちます。この鐘楼は1701(元禄14)年に建立され、成田市指定文化財に指定されています。打ち鳴らされる梵鐘（ぼんしょう）は、1636(寛永13)年に鑄造されましたが、戦時中に供出。現在の梵鐘は1968(昭和43)年の大本堂建立を記念して人間国宝の香取正彦氏により鑄造されたものです。

成田山 HP より

上記の様な説明文を読むと金属類回収令により供出されてから現在の梵鐘が出来るまでの間はどうかっていたか疑問が残ります。金属類回収令の時は二つの梵鐘があって当時使用されていなかった最初の梵鐘が供出されたと思われます。

額堂内にある梵鐘は1867年から1968年までの約100年間使用されていたようです。

仏教寺院にある鐘は、梵鐘と呼ばれ、仏具として重要である為（お寺の商売道具）

一個は残しておく必要があった故に使用中の梵鐘は供出をкаろうじて免れた。

第二の梵鐘『額堂内の梵鐘』についても記述して欲しいですね。

答えを読んだ方は、供出後1968(昭和43)年迄梵鐘はなかったのかと疑問に思います。

### 梵鐘の考察

最初の梵鐘 1636年に鑄造

使用期間 1636年～1867年年迄（1867年は第二の梵鐘が鑄造された年）

1867年から供出される迄はどこかに保管されていた。

この梵鐘は金属類回収令により供出された（金属類回収令 1941年から1945年の年間）  
二番目の梵鐘 中興第十三世照輪僧正代（1867年から1883年の間）で江戸時代末とのこと  
即ち1867年に鑄造されたものと思われる。

使用期間 1867年～1968年（約100年間使用）

現在の梵鐘 1968年に鑄造（奇しくも第二の梵鐘鑄造から約100年後である）

使用期間 大本堂建立年の1968年～現在 人間国宝 香取 正彦氏鑄造

額堂にある梵鐘には、下記のように説明書きがある。

この梵鐘は江戸時代末当山中興第十三世照輪僧正代に神田鍋町の藤原国信により鑄造され  
現本堂が完成する昭和四十三年まで毎日時を告げていた鐘である。 重さは912,5キロ

### とっておき情報

なお朝昼夕と時を告げる鐘の音は、いくつ鳴るのでしょうか？

朝は21回 昼は13回 夕は11回の様です。最後の一回は留め打ちでかるく打つ。

また朝夕は鐘楼の梵鐘と大師堂の鐘とが掛け合いをします。